

令和5年度 次世代総合教育会議

開催日時 令和5年7月31日(月) 13:30~15:30

会場 ザ クラウンパレス新阪急高知 3階「花の間」

\*\*\*\*\*

(司会)

皆さまお揃いになりましたので、ただ今から「次世代総合教育会議」を開会させていただきます。

私は、本会議の進行、ファシリテーターを担当します高知県教育政策課長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議では、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿とは何か」というテーマに基づき、県内の高等学校・特別支援学校に在籍されている5人の委員よりご発表していただきたいと考えています。

それでは、まず開会にあたりまして、濱田知事からご挨拶を申し上げます。

(濱田知事)

皆さま、こんにちは。高知県知事の濱田でございます。本日は、皆さま方、大変お忙しい中「次世代総合教育会議」にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

特に高校生の委員の皆さまは、これまで、本日の発表に向けまして各学校のご友人や先生方とともに、様々な準備をしてきていただいたというふうに思います。本当にご苦労様です。ありがとうございます。

本日、こうして高校生の委員の皆さまのお考えを直接お聞きできますこと、また、意見交換ができますことを大変楽しみにしてまいりました。ちょうど国におきましても、今年の4月から子ども家庭庁という役所もできまして、国全体として、子ども真ん中社会を目指していこうという流れになっています。そのためには、当事者である子どもの声を、行政を行うにあたって、いろんな形で受け止めてお聞きをし、生かしていこうという大きな流れがございます。

そうした意味でも、本日の会議は多くの意義があるというふうに思っております。また、この会議について申しますと、本県の場合、今後の教育の基本的な方向性でありますとか理念、こういったものを、いわゆる教育大綱と言っておりますけれども「教育等の振興に関する施策の大綱」という計画にまとめまして、これを4年毎に更新をしてきています。今年度が今の4年間の大綱の最終年度となっておりますので、この次の、令和6年度以降の4年間の大綱をどういった内容にするかという議論を、今、教育委員会を含めまして、県全体で始めているところであります。そうした流れの中で、特に教育の場の、いわば受け手であります高校生の皆さまが、どういったお考えをお持ちなのかということについて、こうした形で教育委員さん方も含めまして、お聞きできるというのは、大変楽しみにしてまいりましたし、意義深いことではないかというふうに思っております。

皆さま方からご発表いただきます内容でございますとか、本日の様々な意見交換の中身

を次期の教育大綱はもちろんでありますけれども、県の教育行政の在り方の中に、できる限り生かしていきたいという思いであります。皆さま方には、どうか忌憚のない、自由な率直なご意見をお聞かせいただきまして、次の世代に向けた、まさしく、本県の教育の在り方に関しまして、有意義な意見交換の場となりますように、限られた時間ではごさいませけれども、よろしくお願いを申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、早速会議の方に入らせていただければと思いますが、まず、本日の次世代総合教育会議にご出席されています委員の5名の皆さまを、私の方からご紹介させていただければと思います。

それでは、発表順にご紹介させていただきます。

まず、高知小津高校の嶋本遥委員です。続きまして、高知工業高校の藤村陽輝委員です。続きまして、高知ろう学校の岩田桃未委員です。続きまして、清水高校の扇喜賢児委員です。最後に土佐高校の金子明弘委員です。ありがとうございます。

本日は、次世代総合教育会議の5名の委員の他に、知事、教育長、また5名の教育委員が参加をしております。皆さま、よろしくお願いたします。

それでは、早速会議の次第に沿いまして、会議を進めさせていただければと思います。

まず、本日はテーマの「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿とは何か」について、各委員の皆様から10分ほどのお時間でご発表をお願いできればと思います。その後、各委員の発表につきまして、他の次世代総合教育会議の委員の皆さまから、ご感想やご意見などを頂戴できればというふうに思っております。

それでは、早速ご発表に移らせていただければと思います。

まず、一人目、高知小津高校の嶋本遥委員、よろしくお願いたします。

## 【発表】

◎県立高知小津高等学校 嶋本 遥 委員

皆さま、こんにちは。私は県立高知小津高等学校普通科2年の嶋本遥です。今から、私の考える理想的な学校の姿について発表を始めます。

まず、私の通っている小津高校の概要ですが、小津高校は今年で創立150周年を迎える歴史のある学校です。また、普通科と理数科があり生徒数803名という大規模校です。ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、文武両道を重視していて部活動も盛んです。開成堂という自習室があったり、食堂が6階にあって眺めがいい中でお昼が食べられるなど大変施設が整っております。

次に、小津高校のいいところですが、小津高校のいいところは二つあります。

一つ目が、7時間授業や土曜補習があること。模擬試験やスタディサポートの試験を通して、学力の定着や自主学習の習慣を身に付けることができます。私は汽車通学をしているのですが、汽車通学の隙間時間に英語の単語帳を見たり、小テストの課題を勉強したり

するなど、勉強に対する意識が高まり、こういう隙間時間をうまく利用することで、自分の進路実現にもつながると思います。

二つ目が、総合探求活動があるところです。私は1年生のときにフィールドワークで高知県立大学に行って、高知県の課題や高校生の私たちにできることを大学生の方と話し合いました。普段、高校生が大学生と関わることはあまりないし、高知県の課題について、深く考えることもないので、とてもいい経験になりました。

次に、小津高校の変えたら良くなることについてです。小津高校の変えたら良くなることは二つあります。

一つ目が、聞く授業から自分達で話す、考える授業に転換することです。実際、英語で自分の好きな食べ物についてプレゼンを行ったんですが、人前に立つことで自信がつくし、スピーチ力やコミュニケーション能力を高めることができますと思います。そういったことは、受験での面接や、就職の際の面接にも役立つと思います。また、自分たちで話すことで、友達とのコミュニケーションがとれるし、一人で考えるより友達と考えた方が理解度が高まると思います。

二つ目が、校則についてです。皆さんもこの校則は必要なのかなと思うことはないですか。私もあって、例えば小津高校の校則だったら、女子の靴下の色は白だけなんですけど、男子は黒とかグレーとかがオーケーだったり、袖まくりをしてはいけないという校則があったりするんですけど、この校則の必要性や理由を生徒全員が理解できるようになったらいいなと思いました。

次に、理想の学校についてです。私の考える理想の学校は三つあります。

一つ目は、学校外との繋がりがあある学校です。それは、1年生のときに行ったフィールドワークのことについてなんですけど、多くの情報を得るために学校内ではなく、学校外の人たちと交流して、意見を交換し合えたら、もっと自分の知識も増えます。あと、大学生と高知県の課題についてお話したんですけど、普段は課題について考えることがないので、高校生の私たちが今後、課題をもっと考えられるようになるといいなと思いました。

二つ目が個性を伸ばすことのできる環境がある学校です。学校は集団行動もあり、周りの人のことを気にすると思うんですけど、友達とのコミュニケーションをうまくとっていけば、信頼関係が生まれるし、例えばこういうプレゼンとかのときも、この会議のルールでもあるように、他人の意見を批判しないとか、他人の意見を受け入れて相手の良かったところを伝えると、友達との信頼関係が生まれて、自分の意見や個性が自然と出やすい環境になると思いました。

三つ目が、社会に通用する実力が身に付く授業がある学校です。これは課題研究という今2年生が行っている活動なんですけど、課題研究はクラスでグループに分かれて、ジェンダーとか言語とか教育とか、それぞれの課題を見つけてグループで話し合いながら、意見を出し合って、自分たちなりの課題に対する答えを見つけていきます。この授業で課題発見力だったり、思考力、想像力だったり身について、この力は社会に出たときに必要な力だと思うし、社会に通用する実力って、勉強ができるだけではないと思うので、こういう活動が、もっと他の学校にも広がっていければいいと思います。また、この課題研究

の仕組みを他の教科にも取り込んで、自分たちで答えを導き出す授業になれば、充実した学校生活を送れると思いました。

この三つが、私の考える理想の学校の姿です。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(司会)

嶋本委員、ありがとうございました。嶋本委員からは、理想的な学校の姿として、まず、変えた方がいいことというところで、考える授業への変換でしたり、あるいは校則についての在り方の理解であったり、そういったようなお話をいただいた上で、今後の理想とすべき学校の姿としては、学校外とのつながりを持った学びの展開でしたり、あるいは個々のそれぞれの個性の主張、個々の主張を信頼性を持ってできるような環境をつくっていくこと。そして、今後社会に通用していく、答えを探求していくような授業が必要ではないかと言ったようなご意見をいただきました。

それでは、次世代総合教育会議の他の4人の委員のメンバーの皆さまで、ただ今の嶋本委員のご発表につきまして、何かご感想ですとか、ご意見、もしございましたらお一人ほど頂戴できればと思いますが、いかがでしょう。

(扇喜委員)

清水高校3年の扇喜賢児です。僕はちょっと質問があるんですけど、理想的な学校の姿で、学校外との繋がりというものを挙げていますけれども、嶋本委員の考える、大学生以外とどのような行動や連携、意見交流をしていけば、理想的な学校に近づくと考えていますか。

(司会)

今、扇喜委員から、大学生以外とか、学校外との繋がり、どのような形が考えられるかというご質問でしたけれども、嶋本委員いかがでしょう。

(嶋本委員)

この前、地域の方と清掃活動をしたんですけど、やはり、地域の活動に参加するという事は、すごく大事だと思うので、地域の方との関わりだったり他の学校と関わったりすることが大事だと思いました。

(司会)

扇喜委員、よろしいですか。ありがとうございます。もう一人ほど、もしご質問等あればいただければと思いますが、いかがでしょう。

もしよろしければ、教育委員や教育長、あるいは知事、皆さまから何かご質問、ご感想がありましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

(永野委員)

嶋本委員、ありがとうございます。私は嶋本委員の在籍している小津高校、150年の伝統ある学校、県民の皆さまから愛されている学校とよく承知しております。そういったアイデンティティの中で委員の発表があったというふうに思います。

それで、最後のシートに私は着目しました。どのような学校が基本的に理想なのか。でも、これは個人の理想でなくて、実は私たちも全く意を同じくしています。学校外との繋がり、個性を伸ばすことのできる環境、それから、社会に通用する実力が身に付く授業。まず、社会に通用する実力が身に付く授業と、次に個性を伸ばすことのできる環境という二つの点で、これは質問ではないんですけど、頷いていただけたらいいです。例えば今の学び方で、新たな学び方が出ていますけど、チャット GPT なんて聞いたことありますか。使ったことないかな。文章を人工知能が自動的に生成する。こういう時代なんですよ。

ですから、一般的に言われていますけれども、知識だけで学びが完結する時代は、もう既に終わってしまっている。知識は当然、基にしなくてはいけないけれども、その上で、本物を見つける私たちの力量が問われている、っていうふうに言われています。

そうすると、まず個性を伸ばすということと、社会に通用する実力のある自分でありたいということ、今の時代に相応しい学び方を踏まえて、そういった力を私たちが付けていくということがものすごく大事なので、あなたが最初に、こんな授業がいいなということを紹介してくれましたけれども、自分たちで考える授業をまずつくっていきたいとおっしゃったでしょう。大賛成です。

先生たちは、私も含めてかもしれませんが、教えたい。もっともっとみんなに知ってもらいたいと思って、教え込みたいんだけど、その前に皆さんが何を知りたいか。皆さん自身の思いや発見というものを大事にしない。そういうところから、自分に何ができるかというところを見つけていく。そういう意味合いで、私は、嶋本委員さんの発表をすごく真摯に受け止めて、これから一緒に新しい学校を創っていきたいなど。ワクワク感が出てくるような発表だったと思います。また、後ほど時間があったら、そういったことで討論に参加をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。それでは、そろそろお時間にもなりますので、嶋本委員さんのご発表と意見交換は以上とさせていただきます。嶋本委員に改めて皆さま、拍手をお願いいたします。

それでは続きまして二人目、高知工業高等学校の藤村陽輝委員、ご準備をよろしく願いいたします。

◎県立高知工業高等学校 藤村 陽輝 委員

皆さま、こんにちは。高知工業高等学校3年藤村陽輝です。

まず、高知工業高等学校の紹介をします。高知工業高等学校は明治45年、1912年に開校し、昨年、創立110周年を迎えました。県内では歴史と伝統を持った工業高校です。全

日制課程に7科と進学コース、定時制課程に4科と研修コースがあり、全日制、定時制合わせて900名を超える生徒が勉学、部活動に頑張っています。私は建築科の3年生です。

また、本校はイノベーションKTの愛称で総合的な探求の時間に取り組んでいます。自ら学び、自ら考え、自ら行動する力、自ら力を根源に「生きる力」を育成する活動を行っています。

ここで、簡単にイノベーションKTについて紹介したいと思います。

1年次は開発力を育てる集団活動として「ものべーション」という活動を行っています。私は1年次、高知工業高校にロッカーがないことや教科書が大きく、机が一杯になることに着目し、折りたたみサイドテーブルというものを作成しました。

2年次には課題を分析し将来への具現化を目指すための企画として「SDGsを考える・提案する」という活動を行いました。私は、SDGs11番の住み続けられるまちづくりをというテーマに沿って、高知県の現状を調査し、解決案を提案しました。

3年次の「課題研究」では、3年間の学びの集大成として専門力、探求力のまとめとして各科が取り組みます。こちらが、過去の先輩の作品になります。こちらが、オレンジホールでの発表会の様子です。地域の企業、約100名や中学生、保護者、同窓生を招き工業教育の理解を深めてもらうことを目的としています。

それでは、発表に移ります。この発表をするに当たり、全校生徒にアンケートを協力してもらい、校長先生からもアドバイスをいただきました。

今の学校の「いいと思うところ」

産業高校ならではの良さとして、専門的な技術を身に付けられる。ものづくりやフィールドワークなどの体験をしたり、専門家、企業、地域の方などを招いた授業があります。また、社会に出て役立つ資格を取得でき、資格対策の授業があります。実習や課題研究を通して、問題解決する力が身に付きます。高知工業高校では、先ほど紹介した「イノベーションKT」と呼ばれる独自の探究活動を行っています。自分の得意分野を生かしたテーマ設定などにより、自分の強みを磨くことができます。

また、今の時代になり感じる良さとして、コロナによる制限がなくなり、みんなが学校に登校し机に向かい、同じ教室で、同じ時間を共有することの大切さに気づきました。また、タブレットの導入により、調べ物や意見交換がしやすくなりました。

高知工業高校ならではの良さとして、就職・進学ともに選択肢が幅広く、先生方のサポートも手厚いです。令和4年度の進路先の情報として、就職率、進学率はともに50%、就職内定率は22年連続で100%となっています。また、国公立大学進学者は19名となっています。高知工業高校は部活動にも力を入れており、運動部20部、文化部は19部あり、私は陸上部と木材加工などを行う建築よろず舎という部活動に入っています。他にも、各科の技術を生かした文化系の部活動もあるのが高知工業の特徴です。

次に、理想的な学校の姿について、変えたら良くなると思うところをお話していきます。変えたら良くなると思うところを大きく分けて四つ考えました。(1)デジタル化を進める。(2)授業スタイルを柔軟にする。(3)男女によるルールの違いをなくす。(4)学校の改修を行うです。

時間の都合上、発表では（１）について説明します。（２）（３）（４）は資料をご確認ください。

（１）デジタル化を進める。

タブレットの導入についての問題点を改善する。多くの生徒が同時に使用するとネット環境が悪くなり、作業がスムーズに行えないことがあります。また、制限が厳しく調べたいものが調べられないことがあります。先ほど紹介したイノベーションKTなどで、ものづくりをする際に物の値段を調べるときに調べられないことがあります。

教科書や配布物をデジタル化する。高知工業高校はロッカーがないのに、教科書が重く分厚い。定時制と教室が共用のため、荷物を全て持ち帰る必要があります。荷物が重くなっています。また、プリントを無くす心配がなくなり、ペーパーレス化で資源削減にも繋がると思いました。

日常生活や将来の仕事で生かせる授業をさらに充実させる。オンラインで海外の方と話す授業など、英会話教育をもっと充実させるべきだと思います。また、実際に社会人になって使うことが多い、エクセルやタイピングの授業などを行うと、もっと良くなると思いました。

理想的な学校の姿と、それを実現するためには何が必要なのか。私が考える理想的な学校の姿は「型にとらわれない柔軟な学校」です。

一つ目は、柔軟な学びができる学校。一人一人がなりたい自分や目標をもとに、ものづくりのテーマを決め、そのために必要な勉強を自分で選択し、実践的に学べるようにすべきだ。その方が、主体的になり学びが深まると思います。

二つ目は、生徒の声を柔軟に取り入れる学校です。今の学校は、意見を出しても聞き流されたり、そもそも声を挙げてもいいような雰囲気がないことが問題だと思います。意見を聞くことがゴールではなく、意見を取り入れて改善することがゴールになる学校が理想だと思います。生徒から出た意見をどう取り入れていくかを、話し合う機会を設けるべきだと思います。

以上で、発表を終わります。何か質問はありませんか。

（司会）

ありがとうございました。今後の良くなることとしてはデジタル化を進めるということで、ネット環境の問題ですとか、また荷物の持ち帰りの関係ですとか、そういったような課題のご提議をいただきました。また、日常生活や将来の仕事に生かせるような授業を、デジタル化で充実させていく必要があるのではないかというご意見をいただきました上で、今後の理想的な学校の姿としては、一人一人がなりたい目標などを基にして、授業のスタイルも含めて、柔軟に選べたりすることができるような学校。あるいは実践的な学びを展開するということですので、あるいは生徒の声を柔軟に取り入れて、生徒の声を尊重して先生と生徒が話し合いをする機会を設けるような、そういったようなことが今後必要ではないかといったようなご意見をいただきました。

それでは、今、藤村委員からも、何かご質問があればというふうにいただきましたけれ

ども、他の次世代総合教育会議の委員の皆さまで、藤村委員のご発表について、ご感想ですとか、あるいはご質問があれば頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

(金子委員)

私がこの発表でいいと思ったのは、デジタル化を進める上で、三つ目の日常生活や将来の仕事で生かせる授業をさらに充実させるということで、これからの社会は、デジタル化が進んで、デジタルのスキルがないとやっていけないような社会になると考えていて、そういう中で、学校の授業でデジタル関係の授業をするというのは絶対必要なことだと思います。

あと、タブレットの導入とかは、問題があると聞いたのですが、それを段階的に解決していき、紙を大量に使うと環境に悪いですし、生徒の負担にもなると思うので、そういうのをタブレットの導入で、減らしていくというのもいいと思いました。

(司会)

金子委員、ありがとうございます。藤村委員、何か今の金子委員のご感想について何かございますか。

デジタル化をいろいろ進めていく必要があるんじゃないかと。例えばタブレットを使うことで、紙の使用などが少なくなるので、環境にも良くなるんじゃないかといったようなこととか、今後、社会のことを考えて、やっぱりデジタル化をどんどん進めていく必要があるんじゃないかという藤村委員のご発表を、金子委員も賛同というか、ご賛成いただいたような形ですが、いかがでしょうか。

(藤村委員)

意見をありがとうございます。この問題は、タブレット導入で便利になったことも結構多いんですけど、便利の中にまだまだ問題が一杯あるので、できるだけ早く解決して、デジタル化を進めるようにしていけたらいいなと思います。

(司会)

藤村委員、ありがとうございます。おっしゃるように、タブレットを導入して便利になった一方で、まだまだ課題もあるというところで、そういったことをしっかりと解決をしていくことが必要ではないかという、そういったようなご返事を頂戴しました。

他に、次世代総合教育会議の委員の皆さまで何かご意見、ご感想がある方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、教育委員の皆さま、知事、教育長、何かありましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(平田委員)

教育委員の平田でございます。先ほど藤村委員さんからの発表、意見交換、専門高校と

して、理想的な学校の姿について前向きに、そして貴重な意見を、それぞれの高校生委員さんから聞かせていただき、ありがとうございました。

実は、私は約10年前に藤村さんが在籍する学校に勤務をしておりましたので、少しは学校の実情は理解をしていましたが、事前にいただきました資料を見ましたときに、理想的な学校の姿として、学校の改修という点が挙げられております。発表はありませんでしたが、特にトイレの問題などについて、私も本当に教育環境改修という点で、トイレなんかは大きな課題があった学校だと思っております。私自身の力不足も感じながら、意見を聞いております。

本日、改めて生徒の皆さまと教職員が思いを語り合いながら、学校が一つになって、社会の変化に対応できる工業高校はどうあるべきか、大きな示唆をいただきました。感謝をいたします。時間的制約もあるようでございますので、私からは1、2点、お話をさせていただきますたいと思っております。

藤村委員さんの発表の中で、最後でございましたけど、生徒の声を柔軟に取り入れる学校という提案があったと思います。生徒が居て学校は存在するんだと、私はずっと思っております。生徒の声を聞いて、教職員と一緒に改善することが、多くの学校が理想としています。全く私も同じ思いでございます。ぜひ、この思いを持って理想的な学校に向かっていただきたいと思っております。

併せまして、学校の良いと思う点を数点挙げられております。生徒と教職員が一緒になって、さらに伸ばして、学校の強みとして定着させることをゴールとしてほしいというふうにも思っております。そうすると結果として、全国に誇れる工業学校になるんじゃないかと思っております。ぜひ、それを目指して頑張ってくださいたいと思っております。頑張ってください。どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。それでは、改めて、藤村委員のご発表につきまして拍手をお願いいたします。

それでは、続きまして3人目、高知ろう学校の岩田桃未委員よりご発表をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

◎県立高知ろう学校 岩田 桃未 委員

皆さま、こんにちは。県立高知ろう学校の岩田桃未です。

まず、高知ろう学校のよいところは、「少人数なのでみんなのことを知っている」「小さい頃から知っているので遠慮がなく、意見を言いやすい」「行事等学校全体で取り組みやすい」「先生の指導が丁寧で質問などしやすい」「ICT環境が整っている」「給食は食堂で全員で食べているので幼稚部から高等部まで学部を超えてコミュニケーションがとりやすい」等の点だと思います。

変えたらよくなると思うところは、「固定された集団なので他校との合同授業ができたらい」「自分たちの取組を外部に発信できる場をつくる」「地域との交流を積極的に行う」

「授業の中にボランティア活動などを取り入れる」等です。

理想とする学校は、「自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校」「地域との交流を積極的に行い、学び合える学校」「自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校」だと思います。

今回の取組のテーマに食品ロスを選んだ理由は、二つあります。

一つ目の理由は、給食で余った牛乳を持って帰りたいという生徒の声がかきかけでした。学校給食法で持って帰ってはいけないことが定められているので、余った牛乳は捨てられてしまいます。「勿体ない」というのが私たちの共通の思いとなりました。

二つ目の理由は、生徒のリクエストメニューだったにもかかわらず、ラーメンの麺が残飯として3kg残ってしまったことがきっかけで、毎日の残飯の量に対する関心が高まってきたからです。隣の日高特別支援学校みかづき分校と一緒に計算しています。

学校給食残飯率をグラフにしてみました。青いところが主食残飯率になっています。一番高く伸びているところが、ラーメンの麺の残飯率になっています。リクエストメニューなのに今までと比べてみると、一番多く残されていることが分かります。

残飯の量については、学校栄養士の中村さんも考えていて、4月にご飯の量についてのアンケートを行っていました。内容は、教師・生徒のそれぞれの適切なご飯の量に関することです。

何かできることはないかと、私達はまずご飯に着目し、どうしたら残飯を減らせるか考えてみました。しかし、中村さんはどうやったら適切なご飯の量を分けることができるのか悩んでいたもので、一緒に作戦を考えました。

私たちは二つの対策を練りました。

対策① 6月9日から実施

- ・それぞれ希望の量のところに名前を書いたシールを机に貼る。

普通の量が200g、やや少なめが175g、少なめが150gの3つに名前を分けて、配膳する人に見てもらいながら分けてもらいました。このように、名前を書いたシールを貼っています。青い部分を拡大するとこのようになっています。6月9日から、先ほどの名前を書いたシールを貼るといった対策を取りましたが、その後も残飯率が増えてしまっています。

対策② 6月16日より実施

- ・自分の適量(多い、少ない)を調整する。
- ・食べることでできないものは周りの人にあげる。

まずは個人の「食べ残し」を減らすことを考えました。結果、ごはんの適量について取り組んできましたが、廃棄する食品の量はそれほど以前と変わりませんでした。個人の食べ残しの量は減っても、全体で廃棄する量を減らせるわけではありません。しかし、食べ残すという行為を減らすことになり、生徒や先生の意識改革に繋げることができたと思いました。この取組は、引き続き行っていきます。さらに、残飯の有効活用も考えていきたいと思っています。

そこで、再度私たちにできることは何かを考え、ターゲットを学校から地域に広げってみました。そして、私たちは学校の近くで、以前から交流のある子ども食堂に着目しました。

子ども食堂では、大きく4つのことを行っています。

1. 子どもたちがおなかいっぱい食べられるように、食事の提供
2. 放課後の宿題や自主勉強をする「水曜校時カフェ」を開く
3. 子どもたちの居場所づくり
4. 食材支援

となっています。今後、子ども食堂の代表のところにあいさつに行き、私たちのできることは何か話し合いをしていきたいと思っています。

改めて私たちが理想とする学校とは、

- ・自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校。
- ・地域との交流を積極的に行い、学び合える学校。
- ・自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校。

だと思います。これからも理想に向かって皆で協力していきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

(司会)

岩田委員、ありがとうございました。理想的な学校の姿として、自分たちができる社会貢献を自分たちで考え、実施できる学校だったり、あるいは地域との交流を積極的に行って学び合える学校だったり、また、自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校が必要であるといったことをお示しをいただいた上で、例えば高知ろう学校では、その取組の一環として、学校給食で食品ロスをなくすためにはどうすればいいのかといったような取組を学校の中、あるいは学校の外の子ども食堂とも関係しながら、進めていったようなことをやってこられた。そういったご提言を岩田委員からいただきました。

それでは、今の岩田委員からのご発表につきまして、他の次世代総合教育会議の委員の皆さまから、何かご感想やご質問等ございましたら、いただければと思いますがいかがでしょうか。

(嶋本委員)

今、私はお弁当なんですけど、中学生のときは給食だったので、中学生のときを思い出してみると、やはり残飯って結構多かったなと思って、希望のご飯の量を机に貼るとかすごくい取組だと思うし、私も理想の学校で、学校外との繋がりがあ学校が理想って言ったので、地域との交流があるのはすごくいなと思いました。以上です。

(司会)

嶋本委員、ありがとうございます。岩田委員、今の嶋本委員からのご感想について何かお返事はございますでしょうか。

(岩田委員)

ありがとうございます。小津高校とは、コロナがあつてから交流ができていなので、コロナが落ち着いてきているので、これから交流を深めていきたいと思います。

(司会)

岩田委員、ありがとうございます。コロナも落ち着きましたので、学校間での交流も進めていただきたいなというふうに思いました。岩田委員のおっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。

(扇喜委員)

僕も中学校のときまで給食だったんですけど、やっぱり残飯の量が気になっていて、自分にできることは人より多く食べるくらいで、実際に何か対策を練るというわけでもなくて、高知ろう学校さんは、こういうふうに関心を持って対策を行っている、努力をされているのは素晴らしいと思いました。

それから、理想とする学校で、自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校というものがあつたんですけど、理想とする学校になっていけばいいと思いました。

(司会)

岩田委員、いかがですか。

(岩田委員)

ありがとうございます。

(司会)

それでは、教育委員の皆さまから、何かあればいただければと思いますがいかがでしょうか。

(森下委員)

岩田さん、ご発表並びにご提言ありがとうございました。実際に食品ロスのところ、自分たちの身近なところにある課題にしっかりと着目をされて、先ほど他の委員さんからもあつたんですけども、それをどうやって解決していけばいいのかというところを、自分たちで職員の方々と一緒に、ともに考えて、それを実行されたというところがとても素晴らしいというふうに思って、聞かせていただきました。ぜひ、この部分は、これから次世代の他の委員さんたちにも、ぜひ取り組んでいただきたいことかなというふうに思います。

なかなか課題解決までには、結びつかないことなんかもあろうかとは思いますが、やはり課題に挑戦していく、それで駄目だったら、また改めて考えて、次に取り組んでいく力というのは、これから、社会においてもすごく大事な力になってくるんじゃない

かなと思っていて、これをやはり学校で、どう育て上げていくかというところは、教育の場面で、とても大事なところじゃないかなというふうに、改めて私たちも気付かされたように思います。

そして、他の委員さんからも社会貢献の話があったんですけども、とても大事なところじゃないかなと思います。やはり、皆さま方、若い世代の方が、高知県のこれからの社会をつくっていくというところの中で、地域に出て、地域の課題を見つけて、学校だけではなくて、ぜひ自由な時間、恐らく夏休みとかあるかなと思いますので、そんな時間もどんどん活用してほしいと思います。そして、地域の人と交流をして、地域の人たちがどんな課題を感じているのか、自分たちがまたどんなことが取り組めるのかということ、ぜひ考えて、それをやはりオープンにしていく、それをいろんなところで発言をしていく場というところを、作り上げていくことの大事さを、本当に私ども学ばせていただいたというふうに思います。本当にありがとうございました。

(司会)

森下委員、ありがとうございました。

それでは、改めまして岩田委員のご発表につきまして、皆さま拍手をお願いいたします。続きまして、4人目、県立清水高等学校 扇喜賢児委員からのご発表です。

◎県立清水高等学校 扇喜 賢児 委員

皆さま、こんにちは。僕は清水高校3年の扇喜賢児です。今回は、僕の考える理想の学校について発表していきたいと思います。今回の発表の流れとして、まず初めに清水高校のいいところ。そして、次に変えたらもっとよくなる場所。そして、最後に理想の学校とはどのようなものなのか、発表していきたいと思います。

まず初めに、清水高校のいいところとして、徐々に授業の形態、受け身の授業が減ってきているところだと思います。特に、文系科目の授業では、受け身の授業から話し合いの時間が結構多く取られるようになって、それによって生徒は自分たちで意見を出し合うので、主体性が生まれているのではないかなと思いました。

また、僕が2年生のときには、数学の授業を受けてたんですけど、そのときに、生徒が事前に次の日にやる教科書の内容を予習してきて、その当日の授業で生徒が実際に教師になって、生徒が生徒に教えるっていう、生徒と先生の立場が逆転している逆転授業というものを行っていたので、このような取組から、生徒一人一人の主体性というものが生まれてきているのではないかなと思いました。

そして次に、清水高校は100人以下の少人数校なんですけど、逆にメリットがあって、人数が少ない分、高校の内外の行事とかイベントに参加する機会が平等にあって、僕は積極的にそういう行事に参加させてもらっています。今まで、体験入学にきた生徒に対して高校の説明行ったり、実際に地元の中学校に行って自分の体験談やアドバイスを話したり、また、グローバルリーダー育成フォーラムっていうイベントに参加したりしてきました。このイベントを簡単に説明すると、年齢は5歳から60歳で、国籍も日本以外にも韓国であ

ったり、ヨーロッパであったり、いろいろな国籍の方もこのイベントに参加してて、それぞれがプレゼンを行って、その内容についてディスカッションを行うというものなんですけど、このディスカッションを行ったことで、今まで自分になかった気づきとか、発見があって自分にもいい刺激がありました。

このような経験を多く重ねてきたことで、自分自身を見直すきっかけにもなって、自分の意見を堂々と発表できるようになって自信もついたり、また、新しい自分を発見することもできました。

次に、変えたらよくなる場所についてなんですけど、今の清水高校の科目選択の幅がちょっと狭いところを変えればいいと思っていて、現在の例を出すと、例えば国語と数学があって、その2科目から1科目自分がやりたいものを選んで実施するという形態なんですけど、この形態だと、国語も数学どちらも好きで、どちらもやりたいっていう場合は、どちらかを捨てるしかないし、また、受験勉強のときとかもどちらも必要な科目だった場合に、もう片方は捨てる、自分自身でやらないといけないとなって、ちょっとそういう問題が起きてしまうので、僕が考えるのは、全ての科目の中から自分が学びたい科目を選んで学ぶっていう形を取ることで、自分の学びたいことが学べるので、授業に対して楽しさや面白さっていうのが生まれてくるのではないかなと考えました。

また、各校での総合学習っていうのもあると思うんですけど、総合学習を僕の場合、土佐清水市と関連付けた総合学習にしていくことが大事にしていけば、面白いんじゃないかなと思いました。僕の考える土佐清水市のイメージは自然が豊かで、特に海、魚というイメージがあるので、例えば料理、魚の料理の授業だったり、釣りっていうのを授業に取り入れる。例えば釣りが得意な生徒とか料理が好きな生徒がいた場合には、実際に逆転授業の考え方で、その生徒が先生になって、また、釣りに興味にある生徒や先生が生徒として、その授業に参加していくっていうことを行っていくことで、これも主体的な取組につながっていくのではないかなと思いました。

そして次に、現在生徒がルールづくりに関われる機会っていうのが、現在は5月の生徒総会の1度しかないんです。これだと、僕的にはちょっと少ないなというふうに考えていて、生徒と先生が協同して両者の納得のいくようなルールづくりを行っていけば、いい学校がつくられていくと思うので、僕の今の仮案としては、最低学期ごとに3回、学期の始まりでも終わりでもいいんですけど、生徒総会みたいな、生徒からの要望とかを聞く機会を設けることで、さらにいい学校づくりへつながるんじゃないかなと考えました。

最後に、理想的な学校の姿についてなんですけど、大きく言えば、今のメインの授業の座学っていうのも完全に撤廃して、高知県で言えば、やっぱり自然だと思うんです。その自然を生かしたフィールドワークであったり、先ほども言った、逆転授業を当たり前のように行える環境にしたり、また、先生主体じゃなくて、生徒が主体で授業を行うっていう授業に転換していけば、理想的な学校の姿に近づくのではないかなと思いました。

また、まずは自分の興味のある分野について主体的に取り組む。例を挙げれば、授業以外でも、例えば体育祭の応援団練習であったり、文化祭の準備とかは嫌だなんて思う生徒は少なく、ほとんどの生徒が楽しみながら取り組むと思うんです。まずは自分の興味

のある分野から取り組んでいって、その取り組んだ成果っていうのを報告・発表する場所がある。例えば応援団であったら、体育祭の本番の応援合戦、そういう発表する場所があって、その活動が認められたり、「面白かったよ」とか言われて共感してもらえると、とてもうれしい気持ちになって、もっと意欲が湧くと思うんです。

実際にその活動の成果を発表する。この写真は、僕たちが1学期に台湾の高校生と互いの文化とか、観光スポットとか、食べ物とか、そういうものを発表し合ったんですけど、そのときは、それぞれ生徒が一から、先生の手が加わることなく自分でスライドを、取り組んで作成して、それを発表したんです。僕たちは観光スポットを発表する班だったんですが、ちょっと笑ってほしかったので、その観光スポットが心霊スポットというふうに言われている場所だったため、ちょっと驚かす要素も入れて発表してみました。そうしたら、台湾の学生さんにすごく笑ってもらえて、そこでやっぱり今まで自分たちがやってきたことは間違っていなかったんだなと自分の自信にもつながりました。

このように認められる場があることによって、自信にもつながりますし、また、学ぶ意欲の向上にもつながるので、これからはこういうサイクルが生まれることによって、自分の今までやってこなかった分野に関しても、取り組んでみようかなという意欲が湧いてきます。このようにいいサイクルが生まれることによって、理想的な学校の姿に近づくのではないかなと思いました。以上です。ご清聴ありがとうございました。

(司会)

扇喜委員、ありがとうございました。理想的な学校の姿として、座学だけではなくて生徒主体の学習スタイルですとか、そういったような形で物事に取り組むこと、あるいは、周りの自然ですとか、そういったようなものを生かしてフィールドワークでしたりとか、そういったような取組を行ったり、また、生徒主体でやりたいことが学べて、それをまた活動の成果を報告・発表して、それがまた認められ共感をされて、また学ぶ意欲が湧いてくる。そういうサイクルをつくっていくことが大事ではないかと、そういったようなことを学校として必要ではないかといったようなご提言を頂戴いたしました。ありがとうございました。

それでは、ただ今の扇喜委員のご発表につきまして、まず、次世代総合教育会議の委員の皆さまから何かご感想、あるいはご質問がありましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(岩田委員)

逆転授業っていうのは、私もやってみたいなと思いました。逆転授業は生徒が教えるということなんですけど、先生から教えてもらうだけじゃなくて、生徒が教えるというふうに先生ともいい関係が築けるかなと思いました。

(司会)

ありがとうございました。逆転授業がやはり生徒から教えるということで、そういった

ような、教えられるだけじゃないような活動をやることで、それでまた先生たちとも関係性も良くなるといったようなことで、逆転授業はいいといったような岩田委員からのご感想でした。扇喜委員、いかがですか。

(扇喜委員)

実際に、その逆転授業を行って、やっぱり以前より先生との距離も縮まったなというふうに感じますし、生徒の足りない部分を先生が補ってくれるので、学習不足にもならず、とてもいいことだと思うので、高知県全体でもぜひやったらいいと思いました。

(司会)

ありがとうございます。藤村委員、いかがでしょう。

(藤村委員)

岩田委員の感想とすごく似てしまうんですけど、高知工業も今、座学の授業がほとんど受け身の授業が多くて、面白くない授業っていうか、同じような繰り返しみたいな感じの授業が多くて、清水高でやっている生徒主体の逆転授業は面白そうなので、高知工業でも取り入れたらいいなと思いました。

また、校外に出てフィールドワークとかも、もっと高知工業でもできたらいいなと思いました。

(司会)

扇喜委員、いかがでしょう。

(扇喜委員)

実際にとっても楽しいので、ぜひ先生たちと相談して取り組んでください。

(司会)

ぜひ、学校でまた先生方とご相談していただければと思います。ありがとうございます。

それでは、教育委員の皆さまで何かご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。町田委員、お願いいたします。

(町田委員)

発表ありがとうございました。全体を通して、すごく弱みを強みと捉えてという考え方が素晴らしいなと思いました。一つに、学びをさらに支援してくれる学校というのを理想の形と提案いただいたところは、本当に素晴らしい考え方だなと思いますし、ワクワクを実現してくれる場所であるっていうのが、本当に目指すところなのかなと感じました。自然豊かなこの高知の地域を学び場と捉えて、地域の中の学校を超えて、さらに世界の中の

学校という視点を持っていらっしゃるなと思ったので、この考え方、この提案というのは、本当に高知県全域の学校に活用できるアイデアだなと思いました。

さまざまなことを自分事として捉えるそういう力が、こういうフィールドワークや主体性っていう考え方、この提案いただいた内容で考えていく力が本当に身に付いていくんじゃないかなと思って、すごく素敵な学校だなと思いましたし、よりそれを実現していけるような取組が、形にできればいいなと思いました。自ら考えて行動して、そこだけではなくて、そこを学校が支援して評価していただくことで、いい循環がずっと成長いけるというか、そんなイメージができて、すごくいいご提案だと思いました。ありがとうございました。

(司会)

町田委員、ありがとうございます。それでは、改めまして、扇喜委員のご発表につきまして、拍手を皆さまよろしく願いいたします。

それでは、最後の発表になります土佐高校の金子明弘委員、ご発表の準備をよろしく願いいたします。

◎土佐高等学校 金子 明弘 委員

皆さま、こんにちは。土佐高校2年の金子明弘です。これから理想の学校教育について話していきたいと思います。

土佐高校は、私はちょうど100回生で、100周年の歴史がある学校です。それで、高校では一学年で300人が所属していて、土佐の場合、クラス分けは50人が六つのクラスに分かれて授業を受けるっていうふうになってます。多くの学校だと、文系のクラスと理系のクラスに分かれて授業を受けるっていうのが一般的かなって思うんですけど、土佐ではそうではなくて、クラス分け自体は文系も理系も混ざって行われています。それが土佐のすごくいい点だと思っています。文系なりの考え方とか理系なりのものの見方とか、そういうのをクラスで分けると、それが固定化されてしまう可能性があるはずとずっと考えていて、それを文系と理系が混ざってクラス分けをすることで、お互いの価値観とかを知れるっていうのができるようになっていると思います。

次の土佐のいい点と言いますと、生徒会の仕組みです。生徒会ではメンバーがイベント運営とか、あとは校則改正の運動とかをしています。それは、将来大学とか、あるいは社会人になってからイベントを開催したりとか、あるいは起業したりとか、何か新しいことをするっていうときに、役立つスキルが身に付くのではないかと考えています。

あと、生徒会のメンバーを選ぶのは、生徒全員が投票する選挙で行われるんですけど、選挙っていうのも、将来行くであろう実際の選挙について考える機会っていうのにもなるのではないかと考えています。それをきっかけに政治について考えると、そういうのも可能なのではないかなって思っています。

ここからは、変えた方が良くなるのではないかという点について話していきます。

まずは、授業選択について。今の学校だと、一学年で全員が同じ授業を受ける形になっ

ていると思うんです。そうすると、授業内容が、ある人にとっては簡単すぎて、みんなに合わせてその授業を受けるのがつらいとか、あるいは、勉強が苦手な人にとっては、その授業が難しすぎてついていくのが難しいとか、そういう問題があったりもしています。あるいは授業選択について、文系けど大学で経済学をやりたいから、数学Ⅲを勉強したいっていう人とか、あと理系で今、物理と科学取ってるけど、加えて違ったことをやりたいっていう人が私の学年にもいて、そういう人が受けたい授業を受けられてないっていうのが一つ問題かなと思っています。

そこで提案が二つあって、一つは飛び級っていう仕組みなんですけど、受ける授業を学年ごとで区切るのではなくて、各生徒のレベルごとに区切るっていうので、勉強が得意で「授業が簡単すぎる」って思っている人には、一学年上のクラスに混ざったりとか、あるいは「苦手だな」って思っている人は、一学年下に戻って授業を受けると。そういう仕組みをつくっていくのも必要だって思っています。それは、全部の授業で、ある人が一学年上に混ざるとかっていうのではなくて、例えば数学が好きな人だったら、数学は一学年上のクラスに混ざるけど、英語が苦手な、「英語の授業に付いていくのは難しいな」とその人が思っていたら、一学年下に混ざるっていうことも可能みたいな、そういう仕組みがあったらいいのではないかなと思っています。

そして、提案二つ目が、朝と放課後の追加のクラスということで、先程言ったように、授業で取っている科目以外に勉強したい科目があるっていう人は、そういう受けたい授業を受けられるっていう時間が必要だと思っています。そこで、朝とか放課後とか、そういう空いた時間を活用して、例えば文系向けの数学Ⅲだったりとか、あるいはちょっとマイナーな地学とかの授業とかを受けられるクラスというのをやったらいいのではないかなって思っています。

次は、科学系の大会についてです。例えば今だったら運動部だったら、秋インターハイとか、あるいは県体とか、そういう有名な大会みたいなのが結構あるとは思いますが、勉強とかそういう科学系の方が得意な人にとっては、そういう機会がちょっと少ないんじゃないかって思っています。他にも学校内のイベントだったりしても、運動部にとっては運動会とか、あるいはクラスマッチとか、そういう運動系の大会で注目を浴びられるけど、勉強が得意な人は、そういうイベントが少ないみたいなっていうことをちょっと思っています。

そこで、学校でそういう大会についての宣伝を進めるみたいなのを提案したいと思います。例えば数学オリンピックとか、そういう大会を学校で広めるような活動っていうのをしたらいいのではないかと思っています。実際、今年の数学オリンピックの国際大会とかが日本で行われたんですけど、それはあまり認知されていないような感じに思っていて、そういうのもいろんな人に知ってもらいたいと思っています。

あとは、学校とか、あるいは県レベルでの科学系の大会というのを開催したらいいのではないかと思っています。例えば学校でいうと運動会とか、そういう感じで、1日理科とか、そういう勉強系の問題を解くみたいな、普段のテストとは別に、1日そういう日を設けるみたいな感じにしてもいいと思いますし、あるいは県レベルでいうと、どっかの会場

を借りて問題を解いたりとか、あとは科学とか好きな人とか同士で、交流したりとかっていう機会をつくれたらいいのではないかと考えています。そうしたら、科学へ興味を持つ人が増えて、それが将来、優秀な人を増やすってということにもつながるのではないかと考えています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

(司会)

金子委員、ありがとうございました。まず、理想的な学校の姿として大きく一つ目は、自分に合った授業が受けられるような選択の幅を広げること、それが一つ飛び級の仕組みであったり、あるいは朝や放課後の追加クラスを設けたりすることではないかといったようなご提案をいただきました。

また、二つ目の理想的な学校の姿としては、勉強が得意な人が実力を確かめたり、また、力を発揮できるような、数学ですとか、理科ですとか、そういったような大会を学校単位でも、あるいは県単位でも、もっといろいろ開催をすることが必要ではないかと、そういったようなことを通じて、興味を持つ人がますます増えて、それがまた優秀な人材育成といったようなものにつながっていくのではないかとといったご提言を金子委員からはいただきました。ありがとうございました。

それでは、次世代総合教育会議の他の委員の皆さまで、ただ今の金子委員のご発表につきまして、何かご感想、あるいはご質問等あります委員、いらっしゃいますでしょうか。

(扇喜委員)

文理の混ざったクラス分けで、生徒同士の価値観、考えの共有が可能というふうにおっしゃったんですけど、その提案の飛び級の仕組みというのが実現されたら、1年生、2年生、3年生、それぞれ入り混じるといっているので、さらにそれぞれの価値観というのが共有できるようになるんじゃないかなと、とてもいい提案だなと思いました。

また、勉強が得意な人も目立てるような機会ってというのがあれば、やっぱり勉強に真面目に取り組む生徒が増えると思うし、将来的に優秀な人材を育てられることにつながると思うので、これも非常にいいと思いました。

(司会)

扇喜委員、ありがとうございます。金子委員、いかがでしょう。

(金子委員)

クラス分けってというのは、文系とか理系とか混ざると、お互い自分の知らなかった価値観とか、そういう考え方とかをお互いに知ってというのが、各生徒の知見を広めるとそういうことにつながって、重要なのではないかって思っています。

あと、科学系の勉強が得意な人が目立つ機会がほしいっていうのは、半分ぐらい私の経験からなんですけど、運動が得意な人は目立つけど、勉強が得意な人はあんまり目立ってな

いってというのが今の現状で、それがちょっとおかしいかなって思って提案することにしました。

(司会)

ありがとうございます。他の委員の皆さま、何かご質問、ご感想がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、教育委員の皆さまで何かご意見がありましたら頂戴したいと思います。弥勒委員お願いいたします。

(弥勒委員)

教育委員の弥勒です。金子さん、本当に素晴らしいプレゼンテーションありがとうございます。まず、生徒会でイベントの運営とか、校則についてというようなことでやられていたということ言われていて、今本当に、例えば先ほどもちょっと話題になりましたけれども、人工知能と言われるようなAIが進歩して、いろんな仕事はそのAIに取って変わられて、仕事なくなる、そんな話があると思うんですけども、人としてのコミュニケーション能力、そういう能力が求められる仕事というのは、最後まで残ると思うんです。そういうようなことが自然に育まれるような、そういう風土が土佐高校にはあるんだなということ改めて痛感しました。

それから飛び級の仕組みとか、私が高校のときに飛び級とか、もちろんそんなのはなかったんですけども、英語の授業が一番上と真ん中と下と三つぐらいに分かれていて、レベルによって違うんです。僕は、真ん中にいたんですけど、一番上のところでは、例えばシェイクスピアの原書を読んで、それで授業をやっていると、そういうのはたで見ると、すごく、「できることならそこに行きたいな」っていう、何かモチベーションが生まれたのを改めて思い出させられました。

それと、最後の科学系ということで、科学系の、これは文化系でも言えることだとは思いますが、例えばスポーツだったら、本当にいろんな形で新聞にも載れるような、そういう活躍できる場があると思うんですけど、科学系、文化系の人たちには、そういう場が運動系に比べると明らかに少ない。本当におっしゃるとおりで、そういうことは今まで僕は感じたことはなかったんですけども、何よりもやはり社会人になって大事なことっていうのは、好奇心を強く幅広く持ち続けることなんじゃないかなというふうに思うんです。ですので、そういうような多分、皆さん誰でも自分が興味があることであれば、何時間でも我を忘れて没頭すると思うんですけども、自分が興味のないことを、しかもやらされるっていうのだと30分でも苦痛を感じるっていう、それは多分人間の本性じゃないかと思うんです。

ですので、そういう意味で思い出させられたのは、中村修二さんという方が、随分前に青色LEDというのを日亜化学で発明して、ノーベル賞を獲られたんですけども、その方がどうやってそういうことができたのかっていうことの質問に対する答えっていうのが、「昼間に実験をして、その実験の結果を踏まえて夜の間はその結果をフィードバックして実験

装置を作り直す。そして、また翌日実験をする。その繰り返しをやったんだ」と言うんです。普通に考えれば、もう完全に企業であればブラック企業なわけです。ですけれども、本人がそれを全然苦しなかったというのは、もう本当に好きで好きでしょうがなかった。とにかく、「次に何ができるんだろう」ということを自分で発見したかった。そういう思いにとらわれたので、ほとんど徹夜のような状況でも、それが全く苦しなかったということをおもひださせられました。

そういう意味では、多くの人に、すごく強い好奇心をずっと持ち続けていただくためにも、そういう科学系の活躍ができる場を設けるなんていうのは、本当に素晴らしい提案だなと思いました。本当にありがとうございました。

(司会)

弥勒委員、ありがとうございました。それでは、改めて金子委員に、皆さま、拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。これで各委員の皆さまのご発表は終了いたしました。発表、また活発な意見交換ありがとうございました。知事および教育長からの総括は会議の最後に頂戴できればと思いますが、少しお時間ございますので、全体を通じて何か委員の方ですとか、あるいは教育委員の皆さま、何かご感想とかご意見等ございましたら、全体を通じていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(濱田知事)

質問よろしいですか。

(司会)

知事お願いいたします。

(濱田知事)

皆さん、大変素晴らしい発表をありがとうございました。大体学校の教科や授業をメインにしているところ、変えたらいいところ、理想の姿などをご紹介いただいたと思いますが、いわゆる部活動です。高校生の場合、また皆さんご自身がどういう形で関わられているかということにもよると思うし、学校によっても違いがあるかと思いますが、部活動に関して、今の部活動の在り方、状況に関して、満足度だったり、こういうふうにしていった方がいいとか、理想はこんな姿だとかいうようなところが、もしお聞きできれば、聞かせいただければと思います。

(司会)

そうしたら、部活動をやられている委員の方もいらっしゃると思いますが、今の部活動の在り方について、何かご意見ですとか、お考えみたいなものがあればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。では、扇喜委員、お願いいたします。

(扇喜委員)

僕たちの高校は、生徒数が100人以下の少人数校です。僕はバスケットボールをしていたんですが、部員が男女合わせて5人しかいませんでした。田舎の方だからなのか、ちょっと分からないんですけど、部活よりもバイト、お金を稼ぐ方が優先されて、部活動は中学校のときはしてたけど、高校で入らずにバイトとかしてるっていう、部活動生が少ないっていう現状があり、それで僕たちは実際に連合とかを組んで試合には出させてもらってました。部活動じゃなくてバイトの方を優先みたいな、そういう風潮がちょっと生まれてきてるんじゃないかなと思ったので、地域の方の部活動の活性化をしていけばいいなと思っています。

(濱田知事)   ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございます。他に委員の方はどうでしょうか。では、藤村委員お願いいたします。

(藤村委員)

今の工業の部活動で、僕が入っているのが陸上部と建築よろず舎という活動なんですけど、両方の部活動で顧問以外に外部の方からコーチが来たり、指導してくれる地域の方が来たりして、学校内だけじゃなくて、他のところから来る人たちの指導があって部活動ができています。それが高知工業の現状です。

(濱田知事)

ありがとうございます。

(司会)

他にいかがでしょう。じゃあ、岩田委員、お願いします。

(岩田委員)

私の学校は、陸上部は3人、卓球部は私一人だけ入っています。一人だけなので練習する相手もほとんど先生で、毎日同じ練習相手だったり、先生も会があって練習に来れない日もあって、一人で練習したりすることも多いので、「ちょっと寂しいな」って思うところがあります。

(司会)

ありがとうございます。では、金子委員、お願いします。

(金子委員)

土佐高校では、部活動と勉強を両立する文武両道っていうのが倫理に掲げられて、部活動も頑張るし、勉強も頑張るっていう人が多くて、そういう風潮は、自分としてはいい風潮だと思っています。例えば部活動で努力した経験とか、そういうのが将来、何かしら生活して別のことに表れてくるかなとは思っていて、そういう意味で部活動というのは、学校の中でも重要な場ではないかなと思っています。

(司会)

嶋本委員、いかがですか。

(嶋本委員)

小津高校も文武両道を重視しており部活動に入っている人が多いんですけど、朝早く来て自主練する人だったり、夜も全体の部活が終わってからも自主練をする人がいたりとか、部活動に力を入れている生徒がとても多いです。

(濱田知事) どうもありがとうございました。皆さんのお話の中で、もっとできるだけ主体的にということですか、ご自身の選択で学びたいことを学びたい。やってみたいことをやりたいというお話であったりとか、あるいは学校の外との交流ということもお話があったりする中で、部活動というのはそういう意味でも大事な要素かなと思ってお尋ねをしました。

皆さん、それぞれに重要な意味を見つけて、部活動の位置付けをされているということだと思いますし、いろいろな社会の状況が昔と変わってきているところがありますので、昔のままの形というのが難しいところがあるのかもしれないけれども、できるだけ皆さんのご希望をかなえるような形で、我々もバックアップができればいいなと思いました。ありがとうございました。

(司会)

他、皆さま、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、ご発表いただいた5人の委員に改めまして、皆さま拍手をお願いできればと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして、本日、教育の当事者として次世代総合教育会議の委員の皆さまのご意見をお伺いいたしました。この次世代総合教育会議と関連をいたしまして、私の方から一つご紹介をさせていただきたいものがございます。

資料2となっております資料をご覧くださいと思います。高知県の教育・学校についての若者の「声」となっております資料でございます。

本日のこの会議とは別に高知県内の高等学校、また特別支援学校高等部に在学している生徒の皆さまですとか、あるいは高知県内に在学している16歳から18歳までの若者の皆さまから今年の5月から6月にかけて、教育や学校についての「声」を募集をしてお

りました。その結果をまとめておりますので、資料2で少しご紹介をさせていただければと思います。

まず、資料2の1ページ目でございますように、今回、若者の皆さまの声として301件の「声」を頂戴をいたしました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

その声につきまして、どのような声が多かったのかを2ページ目に少し文字がたくさん並んでおりますページでお示しをしております。これはテキストマイニングというやり方で分析をしているものでして、テキストマイニングというのは、米印にも記載がありますように多くのいただいた文章ですとか、ご意見から、それぞれの単語がたくさん出てくる頻度ですとか、そういったようなものを集計をして、見えるような形でビジュアル的に出てくる、そういったような分析方法なんですけれども、ですので、ここに出てくる言葉、ワードが、いただいた301件の声の中から多かったものが、形としては大きいものとして表れている。そういったようなものになっております。ご覧のように真ん中の辺りに、例えば「校則」ですとか、あるいは「勉強」、「授業」、そういったような言葉が多く出ているのがお分かりいただけるかと思えます。

3ページ以降が、それぞれいただいた声の一部をご紹介をさせていただいているものになっております。

まず、3ページ目ですけれども、一つ校則についてのことがご意見として、声として多くいただきました。これは今日の委員の皆さまからのご発表でもいただいた声にも関連いたしますけれども、やはり校則については、「一つ一つの校則は何のためにあるのか」と、「そういったことをディスカッションできる場が必要ではないか」といったような声を頂戴しております。先ほど、靴下の色のお話もありましたけれども、「靴下の色は勉強することに影響を与えるのか」、「なぜ、髪の毛は染めてはいけないのか」と、そういったようなことを学校ごとはもちろん、高知県全体でも生徒たちの校則について考えていく必要があるというふうに思うといったようなご意見、お声ですとか、また、「各学校において校則がなぜ違うのか」ですとか、あるいは「校則で禁止されているものについて、細かな説明がほしい」ですとか、「なぜ禁止されているのか、論理的な説明をしてほしいです」とか、そういったようなお声を多く頂戴をいたしました。

下側に「高知県教育委員会の見解」という形でお示しをしておりますけれども、こちらの校則につきましては、学校や地域の状況、また社会の変化などを踏まえながら、絶えず各学校で見直しをしていくことが重要になってまいりますし、また、その見直しの中で生徒の皆さまが参加をしていく。まさに今日のご発表でもありましたけれども、そういったようなことが、やはり校則っていうものの意義を理解して、自ら守っていこうといったような態度につながっていくなど、とても意義があることだというふうに県教育委員会としては考えております。

ですので、こういった今頂戴したお声も踏まえて、校則の見直しの取組っていうのは、各学校で積極的に進められることを目指して、次期教育大綱などにも位置付けて取組を進めていければなというふうに思っております。

次に4ページ以降、幾つか簡単にご紹介をさせていただきます。4ページは、まず施設

や設備に関する事で、今日も施設のお話がありましたけれども、やはり防災対策ですとか、またネット環境の問題、またプールや校舎、あるいは「トイレを綺麗にしてほしいです」とか、そういったようなご意見を、お声を頂戴しております。

また、3番の通学についてのことであれば、例えば「交通機関がなかなか少なく通学が大変です」とか、あるいは「なかなか道が悪かったり、あるいは電灯やカーブミラーが少ないことに悩んでいて、ちょっと道が危ないです」とか、そういったようなお声を頂戴しています。

続きまして、5ページの4番の授業についてのことで言いますと、例えば「一人一人に分かりやすく教えてほしいです」とか、あるいは「それぞれの成績ですとか課題の取り組みの方でクラス分けをしてほしい」と。先ほど、飛び級といったようなお話もありましたけれども、そういったようなことでクラスを分けてほしいといったようなお声を頂戴しています。

また、タブレット活用のお話も、デジタル化のお話も今日ありましたけれども、それも増えてきて、「前よりも学習しやすくなってよいと思う」といったようなお声を頂戴しています。

また、授業の受け方と言いますか、授業の仕方の話ですけれども、何を勉強するかというお話で言えば、例えば「課外活動をもう少し増やしてほしいです」とか、あるいは「社会に出たときに必要なことをもっと教えてもらいたい」、「将来の夢に関わる科目などがあるとありがたいです」とか、また、「英語の授業で実践的なものを教えてほしい」、あるいは「環境問題をしっかり教えてほしい」、「総合探求の時間がすごく助かる」といったような、より社会に出たときに必要なことを学びたいといったようなお声も多く頂戴しております。

最後に6ページになります。6ページの関係で言えば、先ほどまさに部活動の話もございましたけれども、部活動については、これはいろいろなご意見がありまして、やはり「強い学校のような部活をしたいです」とか、「部活に集中できる環境をつくってほしい」といったようなご意見もあれば、「少し部活の時間が少し長いのではないか」といったようなお声も頂戴しておりまして、本当にさまざまな部活についてはお声をいただいているところです。

また、最後にご紹介するのは、学校外で学習する機会や場所について、「学校の外で学ぶ施設をもう少し設けてみたらどうか」ですとか、「地元で勉強できる場所をもう少し増やしてほしいです」とか、また、まさに先ほどもコロナが明けたので、少し学校間の取組をしていきたいというお話もありましたけれども、「コロナも落ち着いてきたので、学校外での学びの場の機会を増やしていただいたらうれしいです」とか、学校外の活動で、「もう少し他の学校と活動できるようにしたい」といったような、そういったお声を頂戴しております。

このようなお声を合わせ301件頂戴しておりまして、高知県教育委員会としましては、次期の教育振興基本計画に位置付けて、お声を踏まえて取組を進めていければというふうに考えております。いただいた声のご紹介でございました。

それでは、最後に教育長と知事より会議の総括をお願いできればと思います。まず、教育長よりお願いできますでしょうか。

(長岡教育長)

長岡です。どうぞよろしく申し上げます。私は、これまで高校生の活動、例えば全国高等学校総合文化祭であったり、県高等学校総合体育大会、全国高等学校総合体育大会、こういったものにも参加をさせていただいて、いろいろな高校生の皆さん方の様子を拝見させていただきました。その中で、高校生のエネルギーとか、可能性を感じたことでした。そして、高校生には人々に感動を与える力があるというふうなところを感じてきたところでした。今回の次世代総合教育会議におきましても、それぞれによく知恵をつむぎあって、これからの高知の学校の在り方を考えていただいたものと思います。そのご努力とか準備に、改めて敬意を表したいと思います。また、共に考えてくださったお友達や学校の先生方にも感謝を申し上げたいと思います。

発表の中には、生徒の主体性を大事にする、あるいは個性を伸ばす、そして、学校と社会の往還が必要であると。さらには探求型の学習とか、オーセンティックな学びの実現といったようなことがありました。さらには、授業スタイルの選択とか、自らの興味や力に合った学習、ギフテッド教育の可能性ということなのかもしれません。そういったご意見があったと思います。これらのご意見っていうのは、知識を単に受け取るだけではなくて、それらを基に自分の頭で考える。自分が考える。そういったことの大切さを述べたものだろうと。そして、知識を知識として終わらすのではなくて、教養レベルにまで高める学びの実現、つまりは学びの本質に関することを述べられたものが多かったのではないかと考えております。さらに、生徒と教員が一個の個人として尊重し合って、対話をしていく風土づくりとか、校則についてのご意見、こういったものがありました。これは、民主主義的な学校運営の必要性を述べられたものだと思っております。

いずれにしても、これからの社会を見据えた、あるいは本質的な教育についての貴重なご意見であったと思います。こうした皆さんの思いや声を、ぜひとも実現していきたい。そして、いい学校をつくって、それは生徒の皆さんが本気で主体的に学ぶことのできる学校をつくっていかねばならないというふうに考えておるところです。これからは我々が懸命に努力をしていく番だというふうに思っております。

本日はどうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

(司会)

それでは、知事よろしくお願ひいたします。

(濱田知事)

本日は、高校生委員の皆さん、どうもありがとうございました。また、各教育委員の方々も、それぞれこれを踏まえたコメントを頂戴しましてありがとうございました。全体を通じまして、やはり現場である学校において、教育のサービスの、いわば受け手であります

高校生の皆さんがどう感じ、また何を求めているかというお話をお聞きできるというのは、本当に貴重な機会であったというふうに思います。ただ今の教育長のまとめと多少重なるかもしれませんが、私なりに大きな今後の方向性としてご示唆をいただいた点を4点ほど申しますと、1点目は授業が座学中心ではなくて、むしろ自ら、自分たちで話し合い考え合うというような、主体性を高めていくというような方向性が望ましいのではないかとこの点。

2点目が学校の外との交流を、例えば、フィールドワークだとか、他の学校との交流の中で広めていくべきではないかという点。

そして3点目は、地域であったり、社会の課題にどう向き合うかということについての探求を深めていきたい。例えば高知県が今後元気になるためにはどうしたらいいかだとか、食品ロスをどういう形で減らしていけばいいかというようなことを例に引いていただいて、お話をいただきました。

それから、そのための学校の環境の整備というのも大事な論点だろうと思います。デジタル化という問題であったり、学びたい科目をより選択ができる環境づくりであったり、そういった点も含めまして、この点は我々もしっかりと対応していかなければいけないというふうに思いました。

全体として、私自身の感想を申し上げますと、今なかなか先行きが見えにくい不透明な時代になっているというふうに言われますけれども、そうした中であればこそ、高校生の皆さん、今学校で学ばれている皆さんが、自ら課題を発見をして、そして、それをどう解決したらいいんだということについて、自ら考えて答えを出して行動していただくと、こういうことが今一番教育の中で求められているテーマではないかというふうに思います。

そういう意味から言いますと、今日ご発表いただいた委員の皆さんは、本当にしっかりと受け止めていただいて考えていただいているというふうに感じますし、次の教育大綱の策定の作業の中でも、皆さんからいただきましたお声をしっかりと反映させていきたいというふうに思います。

改めまして、今日発表いただく前までには夏休みの期間に至るまで、皆さんお友達とか学校の先生のご協力をいただきながら、大変なご準備をいただいたというふうに思いますけれども、サポートいただきました皆さま方も含めまして、その点について御礼を申し上げたいと思いますし、敬意を表したいというふうに思います。

本日こうした形で話し合いの場が持てましたこと、大変貴重だったと、また、うれしいひとときであったというふうに思います。今後もいろいろな形で、こうした対話と申しますか、教育の学校の現場の生徒の皆さんのご意見、お考えというものを我々もしっかり受け止めて、そして、我々なりに我々の考えもしっかり発信をさせていただくというような対話の努力というのは、ぜひ続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、次世代総合教育会議を閉会を

させていただきます。委員の皆さま、また、本会議の発表に当たりまして、ご尽力されました学校関係者の皆さま、また本日お越しいただきました保護者の皆さま、またオンライン配信をご覧になっおります各関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

それでは、以上で閉会とさせていただきます。皆さま、ありがとうございました。